樹木医になって

株式会社地域環境計画／樹木医　濱田　拓

1　樹木医の資格を取る

21 期（平成 23 年度試験合格）の樹木医です。

樹木医を目指す方は、まず第一関門である筆記試験にむけての勉強に励まれると思います。これについては、諸先輩方が多くのご意見を挙げられていると思いますので、私からは一点だけ。

樹木医に必要な知識（＝試験の項目）は、樹木の生理から生態、施業、病気、農薬など本当に多岐にわたります。皆さんそれぞれのお仕事や経験の中で得意な分野（強み）があると思いますので、合格に向けては「弱みを補強」、これが最も大事だと思っています。慣れない言葉の暗記は大変ですが、濃密な 2 週間（研修）を過ごせるようしっかりと頑張ってください。

2　樹木医になってみて

私は民間の環境コンサルタントに勤務しており、普段は自然地の植物や動物の調査を主に行っており、日々樹木の診断や治療に取り組んでいるわけではありません。樹木医になる前は、「どんな貴重な植物が生えているか」、「どんな群落がどんな環境に分布しているか」、といった視点で自然を見てきました。

「樹木医になって何か変わりましたか」と問われたら、てんぐ巣病などの病気やキノコ（腐朽菌）に目が向くようになったこともありますが、1 本 1 本の樹について今までよりよく見るようになったことが挙げられるでしょうか。また、その樹が生えている土壌や地形に気を向けるようになったことでしょうか。いずれにしても、自然を見る目が少し深まったように思います。

3　数少ない「樹木医」の仕事の結果

いわゆる「樹木医」としての業務はまだ多くありません。治療などはとてもできませんし、診断までがやっと、それもまだまだ自信が持てるといったものではないです。そんな中で、街路樹診断をし、私が「伐採が望ましい」という診断をした木がありました。

この木は、幹下部から根元に向けて深い腐朽が認められました。また、比較的多くの人が通る場所にあり、根元もかなり踏まれている状況でした。樹勢は悪くはありませんでしたが、回復を目指す状況ではないと判断し、結局その木は伐採されました。

この原稿の依頼を受けた後、伐採痕を見に行ってきました（**写真**）。

伐採して 1 年ほど経っているので周りも腐朽しているように見えますが、内部への腐朽は奥行きで 1/2 位、面積で 20％程度でしょうか。これだけを見ると、「まだ大丈夫だったのかも」と考えてしまいます。ただ、根元の腐朽による倒伏の可能性、植栽場所やその状況、倒れた場合の人的被害の想定などからの総合判断でした。

街路樹として植栽された樹木とはいえ一つの命です。その存続の判断をするのは、やはり非常に重いものでした。

4　これから

「樹木医です」といって胸を張って名乗る自信は、まだありません。わからないことや、悩ましいことだらけです。だから、これからも一つひとつ知識と経験を積んでいく必要があると思っています。

ただ、樹木医だからこそできることもあると信じ、あらゆる状況を見落とさず、一つの命を意識する、そんな総合診療樹木医を目指していきたいと思っています。